



学校教育目標 「ひと」とともに生きる生徒の育成



植竹の息吹き

令和八年
皐月
第2号

「自律」「敬愛」「進取」の気概溢れる我らが学び舎
チーム植竹の創造

さいたま市立植竹中学校
さいたま市北区土呂町352
〒331-0804
TEL 048-663-2115
FAX 048-665-6377



節句から想う ～六日の菖蒲 十日の菊～

校長 玉崎 芳行

薫風を纏（まと）い、蒼天に洋々と舞う鯉のぼりに、暫し心を奪われました。五月五日を迎えます。

さて、わたしたちの国の文化の一つに、「節句」が受け継がれています。このような文化・風習から「六日の菖蒲 十日の菊」という諺（ことわざ）が伝承されています。

一月七日 七草の節句 / 三月三日 桃の節句 / 五月五日 菖蒲の節句 / 七月七日 七夕 / 九月九日 菊の節句 … 伝統的な年中行事を行う節目となる日、日本の四季を彩る代表的な節句が上の五節句といわれています。

“菖蒲も菊も、その必要な五日、九日を過ぎてしまうと意味をなさない。”ということから、この諺を「物事には、ちょうど好い時、ほど良い頃合いがある。その時宜（じぎ）、チャンスを逃さぬように。」と、わたしなりに解釈しています。が、その一方、ややもすると、仕事や生活の中で、“この事務処理は明日でも…” “この文書作成は来週で間に合うかな…” など、易きに流れることも否定できません。

自戒と自省の念を込めて、繰り返し自問自答を重ねています。「本当に明日でも良いのか。誰かが、どこかで困らないかな。自分自身にとって、明日に延ばしてしまうことは、自らの糧になるのか。」と。

あなたは、毎日の学校生活を通し、様々な場面で自らを磨き、チーム植竹の仲間とともに高めあい、伸ばしあう節目、チャンスに溢れています。“今こそ、この時！” “今まさにその瞬間だ！”という節目、チャンスをしっかりと活かし続けての今日（こんにち）を生きています。それ故に、チーム植竹のみなさんは、日々輝いているのです。どうか、あなた自身の頑張りに、自信と誇りを持ち続けてください。

節目といっても、時代という大きなものは稀（まれ）ですが、年度、節句や式という季節的なものに、わたしたちは意識が行きがちです。しかし、心掛けによっては、日々の一瞬一瞬の中に、それぞれが節目、チャンスをもって自らを成長させることができるのではないのでしょうか。

さあ、互いに良い節目、チャンスを活かし、今を大切にしていきましょう。